

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	法人の入所・相談支援事業なども連携して理念の実現を目指している
	内容	母体法人には啓光学園という障害者支援施設があり、児童と成人の入所事業、短期入所、グループホーム、相談支援事業などを運営している。その中の生活介護事業である啓光えがおは市内でも定員55人と規模が大きく、多くの障害者と様々な関わりを持っている。たまげんきや調布・府中・多摩3市のネットワークによる共同受注や共同販売事業も大きく成長しており、利用者が住む地域・環境全体に対する支援という法人理念の実現が現実化している。
2	タイトル	地域資源を活かし参加機会を拡大する事で利用者・職員相互の意識改革を図っている
	内容	利用者支援基本方針に多種多様な年間行事をあげ、各行事に担当者を配置して企画・調整し実施している。障害者の工賃アップを目標に地域の活性化を目指している地域ネットワーク「たまげんき」では行政とも連携して取り組んでいる。今年度からは新たに菓子製造部門を設け、商品開発と販売ルートの確保に努めている。嚙下機能等に考慮し先ずは全ての利用者が味見が出来るように「水ようかん」「わらび餅」の商品化を始めている。地域資源を活かし利用者の参加機会を拡大する事で、利用者・職員相互の意識改革を図っている。
3	タイトル	全ての利用者が「働く」ことに前向きに向き合えるような環境や取り組みがある
	内容	事業計画をより細分化した「係別支援計画書」には、係スタッフが情報共有できるよう、係の作業内容と作業の詳細説明などのほか、各利用者の「目標」「やるべきこと」「注意点」などが箇条書きで示されている。訪問時にも、利用者が何らかの形で作業に参加しており、個々の能力や特性に合わせた作業工程や治具を用意するなどの工夫も見られ、利用者一人ひとりが参加しやすいような環境が整っている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	トップダウンに代わる職員参加型支援の確立が課題である
	内容	正規職員数が限定された代わりに非常勤とパートタイマー職員が増えたことで、利用者支援においてもまとまりを欠く状況が生まれている。施設長など3トップによる職員評価を補うため今年度から毎日1人とショートミーティングを始めた。職員アンケートでは「マニュアル整備」と「業務の標準化」を求める声が多く、就業状況にも不安定さがみられる。ここ数年でトップダウンと強烈な個性を持つ経営層が去ったことで、ボトムアップの職員参加型運営が求められており、職員一人ひとりの支援の評価や互いに誉めあう職場風土の形成などが必要と思われる。
2	タイトル	現場におけるOJT教育の在り方に改善の余地がある
	内容	パート・非常勤職員の増加に伴い、職員全体の底上げが急務となっている。現在は各係班長に教育が委ねられているが、人手不足の影響から利用者支援に追われてしまい、行き届いた教育ができていないように見受けられる。事業所には経験豊富な職員が多く在籍していることから、彼らの持つノウハウを上手く落とし込むことが出来れば、全体の底上げにつながると思われる。そのため、経験豊富な職員のもとに現場でのOJT教育に力を入れてスキルアップを図り、結果として人手不足の解消につなげられるよう期待する。
3	タイトル	利用者視点を根底におき統一した支援提供に期待したい
	内容	アセスメント・利用者行動調査や面談・日々の関わり等を参考にして、利用者・家族の意向や要望を反映させた個別支援計画書を作成し、統一した支援を提供している。職員は常にアセスメントを視野に入れ、利用者の「出来る事」「出来ない事」のみに限らず、「本人が興味を持ったもの」「出来そうな事」等についても利用者1人ひとりに視点を置くことで個々の利用者像を明確にとらえて貰いたい。そのうえで、利用者の楽しみ・やりがい・達成感につながるような支援提供をお願いしたい。